国際交流ひろば

2025 冬

KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL.275/2025

鹿児島県国際交流協会からのお知らせ

ベトナムの物語を読もう！

ベトナムの旧正月の伝統料理の伝説を紹介します！

2/28（土）

13:30～15:30

会 場：カクイックス交流センター 会議室A

定 員：30名　参加費：500円

事業内容や申込方法の詳細は下記QRコード(当協会HP)からご確認いただけます

【講座情報】　【申込フォーム】

中高生団員募集！

第33回 鹿児島県青少年国際協力体験事業

ラオスで考える国際協力 異文化体験ツアー

青年海外協力隊の活動現場を見に行こう

7/19～7/26

事業内容や申込方法の詳細は下記QRコード(当協会HP)からご確認いただけます

（公財）鹿児島県国際交流協会 099-221-6620

「Kagoshima で暮らして」

鹿児島県の在住外国人の数は，年々増加傾向にあります。
『国際交流ひろば』では，鹿児島で頑張る在住外国人の鹿児島での暮らし等についてご紹介しています。
今回は，県内企業で働くベトナムご出身のグエン テイ アン トエット さんをご紹介します。

ご出身と，日本に来たきっかけを教えてください。

ベトナム出身
グエン テイ アン トエット さん

－出身はベトナム中部のゲアン省です。夏はものすごく暑い地域で，風が熱くて痛いんです。扇風機なんてかけられませんよ。ホーチミン氏の生まれ故郷としても知られています。

日本に来たきっかけは，ベトナムの大学受験で思うような結果が出なかったことでした。一度進路を考え直すことになって，「どうせなら，もともと好きだった日本へ留学しよう」と決めました。日本語はその時点では全然できなくて，そこから親を説得して，日本への留学を決めました。

鹿児島で学び，働こうと思った理由は何だったのでしょうか。

－日本では，最初から農業を学びたいと考えていました。日本の農産物は安全で高品質だと海外でも評価が高く，「将来ベトナムにも生かせるかも」と感じたからです。そして，鹿児島はベトナムと気候が似ている部分もあったり，農業が盛んな点に魅力を感じ，鹿児島大学を目指しました。1 年間県内の日本語学校で学んだ後に受験し，学部 4 年，修士 2 年を鹿児島大学で過ごしました。就職では，他県でのインターンを経験しましたが，「慣れた鹿児島で働きたい」という思いが強かったので，鹿児島での就職を選択しました。

現在はどのようなお仕事をされていますか。

－鹿児島県内の会社で，技能実習生や特定技能の方への通訳等をとおして，色々なサポートをしています。車で九州各県を回ったり，飛行機で離島に行ったりすることもあります。ただ，子どもがまだ小さいので，どんなに遠くても必ず日帰りで帰るようにしています。

子どもは今 2 歳で，保育園に通っています。正直大変なことも多いですが，会社の理解もあって，仕事と育児の両立ができています。

日本で妊娠・出産されたそうですが，不安はありませんでしたか。

もちろん不安や困ることはありました。でも，わからないことは自分で調べたり，身近な日本人の方に聞いたりしながら，なんとかやってきました。夫の会社の子育て経験のある方が，いろいろ教えてくれたのも助かりました。困ったときに相談できる人がいたのは，本当に心強かったです。

母子手帳も，すごく役に立ちました。隅々まで読んで，妊娠中のことから出産，産後のことまで書いてあって，「今はこういう時期なんだ」と思えたのが安心につながりました。これはおすすめですね。

実際に一番大変だったのは，産後でした。病院から家に戻っても，体を動かすのがつらくて，「どうしよう」と思いました。市の産後ケア制度のことも調べてはいたんですが，ちょうどそのとき，夫の勤務先の親会社の会長さんが「うちにおいで」と声をかけてくださったんです。会長の奥さんが，食事のことも含めて生活全般を見てくださって，子育ての相談にもたくさん乗ってもらいました。私にとっては，日本のお父さんとお母さんみたいな存在です。

そういう経験があって，鹿児島にはたくさん恩があります。「ここから離れたくない」「子どもをここで育てたい」と思っています。夫がベトナムに戻ると言っても，単身赴任してもらいます（笑）。

日本での子育てはどうですか？

－保育園では，最初に「言葉は大丈夫ですか？」と聞かれました。先生達も，言葉のことで心配されている感じがありました。私は，日本の保育園の仕組みがベトナムとは違うと思っていたので，その辺りが少し不安でした。でも，先生達がじっくり説明してくれて，それで安心して預けられるようになりました。今では，外国人だからといって特別に扱われている感じはないですね。

ママ友もできて，一緒に公園で遊んだり，バーベキューをしたりしています。子どものことを相談できる人がいるのは，国籍に関係なくありがたいなと思います。

ご近所とも仲がいいですよ。高齢の方が多いんですが，お隣の方が子どもに「家で遊んでいきなさい」と声をかけてくれて，いまでは，仕事が遅い日は「一緒に食べよう」と夕飯を用意してくださることもあります。日本のおじいちゃん，おばあちゃんですね。

アンさんの周りには，頼りになる方がたくさんいますね！

－お隣の方とは，最初は「迷惑をかけたらいけない」と思って，ずっと遠慮していたんです。でも，ある日，子どもが「遊びたい」って泣いてしまって，「もう迷惑をかけてもいいから行かせよう」と思いました。そうしたら，相手の方から「子どものおかげで生きがいが戻った」と言われて，「あっ，私，気を遣い過ぎてたんだな」と思ったんです。それで，「迷惑をかけないように」って思いすぎたら，仲良くなれないんだなと思いました。

実は，日本語があまりできないベトナム人の技能実習生でも，ご近所づきあいが上手な人はたくさんいます。私は，日本での生活が長いから，「相手に気を遣う」という文化を理解していて，「迷惑をかけないように」と思うことが多いです。でも，私の周りのベトナム人を見ていると，そこまで気にしていない人が多いですね。料理を作ったからといって，「とりあえず食べて」と声をかけて配ったりします。相手の口に合うかどうかよりも，ただ食べてもらいたいだけなんです。「おいしい」と言われると，また作っちゃいますね。だから，仲良くなるためには，気を遣い過ぎないことも大切なのかもしれません。日本の方にも，外国人にもう少し気軽に声をかけてもらえたら，嬉しいです。

これから家族を呼び寄せる外国人の方へ，伝えるとしたら，どんなことがありますか。

－先に日本にいる旦那さんや奥さんには，「子どもを迎える前に，ちゃんと準備したほうがいい」と伝えたいです。保育園や学校のこと，子どもが病気になったときに行ける病院のことは，できるだけ早めに調べておくのが本当に大事です。例えば，子どもが来てからでは，すぐに保育園に入れるとは限りません。

日本の保育園って，手続きがすごく難しいですよね。申請の仕方も分かりにくくて，「点数が高くないとだめって，どういうこと？」と思いました。申請の時期も何回かあるのに，最初のタイミングを逃したら，ほとんど入れないなんて，どこにも書いていないんです。私は，子どもが生まれて半年くらいしてから調べ始めたんですが，それでももう遅かったですね。結局，最初は認可外保育園にしか入れませんでした。その後も何度も市役所に行って，本当に大変でした。日本人の方でも大変だと思いますが，外国人にはもっと大変だと思います。日本人の「当たり前」は，私たちにとっては初めてのことばかりですから。

それから，これから日本に来る配偶者の方は，できれば，日本に来てから家族以外の人との交流があると良いですよね。家で子どもと二人きりだと，不安になります。国籍関係なく誰かと関わって相談相手ができれば楽しく生活できると思うんです。そのためにも，日本に来る前から，少しずつでいいので，日本語を勉強しておいたほうが絶対にいいと思います。

ことばでつなぐ Kagoshima

鹿児島の外国人が，地域の中で安心して暮らせるように――
ことばを通して人と人をつなぐ，鹿児島で活躍する日本語教師や日本語教室を運営する方たちの思いと活動を紹介します。

あいうえおおすみ日本語教室（鹿屋市）

（特定非営利活動法人 マザリープロジェクト）

代表理事　和田　友美　先生

和田 友美 先生

▼マザリープロジェクトを立ち上げたきっかけを教えてください。

―結婚を機に鹿屋市に移り住み，知り合いもいないまま，家にこもりがちな時期がありました。子どもが生まれて外に出るようになっても，高齢出産だったこともあり，公園で遊ぶ若いお母さんたちの輪にはなかなか入れず…。そんな中，同じように子どもを遊ばせながら一人で立っているお母さんに，思い切って声をかけてみました。すると，「実は私も…」と悩みを打ち明けてくれて，少しずつ仲間が増えていきました。子育ての相談をしたり，一緒に遊んだりする中で小さなグループが生まれ，それがマザリープロジェクトの始まりです。

集まりに参加していたお母さんの中には，マッサージやネイルなどの技術を持つ人もいましたが，子育て中で活かす場はほとんどありませんでした。「せっかくの力を眠らせるのはもったいない」と感じ，声をかけ合ってイベントを開いたりもしました。

その後，行政の子育て広場が整備され，仕事に復帰する人が増えたこともあり，活動としては一区切りつけることにしました。ちょうどその頃，私自身が外国人の相談に関わる機会が増え，話し合いの末，マザリープロジェクトはその流れを引き継ぐ形で，外国人支援へと活動を広げていきました。

▼外国人支援には，なにかきっかけがあったのでしょうか？

―きっかけは，近くの団地に住むパキスタン人の家族との出会いでした。自分の子どもの小学校入学を控え，行政から届く書類を見て，「これ，私でも分かりにくいな」と感じたとき，ふと近所に外国人の家族がいることを思い出したんです。「外国人の人なら，もっと分からないのでは？」と思って訪ねてみると，玄関には「読めないから」と市役所からの書類が山積みになっていました。そこから一緒に教育委員会へ行き，入学手続きを手伝い，給食のハラル対応について学校に説明したり。その子が高校生になった今ですが，引き続き中学生の妹へ和田特製のハラル弁当を毎日届けています。学校給食での対応には限界があり，「他に方法がなかった」というのが正直なところです。目の前で困っている人がいると分かっていれば，見過ごすことができない性分なんです。

こうした関わりを続ける中で，日本語の問題は避けて通れないと感じるようになりました。外国人が地域で安心して暮らしていくには，言葉を通して人と人がつながることが必要です。私が思い描くのは，一昔前のご近所づきあいのように，顔を合わせたら声をかけ，困ったときには自然に助け合える関係です。そのために，日本語教室の必要性を強く感じ，420時間の日本語教師養成講座を受講して立ち上げました。

▼マザリープロジェクトの活動について教えてください。

―マザリープロジェクトでは，外国籍の方への学習支援や生活支援，日本語教室の運営，地域住民との交流を行っています。日本語教室は，ボランティアとともに毎週定期的に開いています。

活動当初は場所がなく，市役所のロビーで始めましたが，現在は受講者やボランティアも増え，鹿屋市の委託事業として公共施設を使いながら活動しています。受講者は仕事で来日している方が多い一方，家族滞在で来ているお母さんたちは孤立しがちです。そこで，勉強にこだわらず気軽に参加できる「おしゃべり会」を開き，悩みを相談できる場にしています。

また，高校生のボランティアグループも立ち上げ，外国籍の子どもたちの学習支援も行っています。子どもたちは，大人には話しにくいことも，年の近いお兄さん・お姉さんには自然と打ち明けられます。「兄弟ができたみたい」と喜ぶ姿も見られ，日本の子どもにとっても，異なる国の子どもたちの困りごとを知る良い機会になっています。

日本語教室の様子

あとは，マザリープロジェクトの活動ではないのですが，地域の子ども会の会長や，子ども食堂の実行委員長なども務めてきました。子ども食堂は「子どもと一緒食堂」と呼び，子どもたちと一緒に高齢者宅を訪ね，お花を渡したり，昔ながらの知恵を教えてもらったりと，世代を越えた交流を続けてきました。今は自治会の副会長もしていますが，最初は引き受けるつもりはなくて。会長さんが家まで来られて断れなかったんです（笑）。でも，副会長として関わることで，自治会を「みんなが集える会」にしていきたいと思っています。

▼地域のさまざまな場所で活動されてきた和田先生ですが，その根底にある思いや，大切にしていることを教えてください。

―私が大切にしているのは，みんなが声をかけ合い，一人でいれば自然と輪に入っておしゃべりでき，困ったことがあれば気軽に相談できる関係性を地域の中につくっていくことです。そのためには，子ども，子育て世代，高齢者，外国人など，世代や国籍に関係なく，地域に住む人みんなが関わっていくことが大切だと思っています。だから，外国人支援は地域づくりの一つなんです。

「多文化共生」と聞くと，国籍の違いで考えがちですが，若者と高齢者だって立派な多文化ですよね。地域の人はそれぞれ考え方や価値観が違います。そこに外国人がいても，同じことだと思っています。一緒に暮らす仲間として，助け合える関係でありたい。違った見方や新しい発見が生まれる場を，地域で共有していけたらと思っています。

▼今後チャレンジしたいことなどはありますか？

―家族滞在で来ている配偶者の方が，地域とつながれる場をつくりたいと考えています。たとえば，料理が得意な方が日替わりで自国の料理を振る舞える，小さなカフェです。

「ずっと家にいるから一日が長い」「働ける範囲で，何かしたい」という声もあり，経営や食品衛生の資格など課題はありますが，地域の人との交流のきっかけにもなると思っています。地域の人にとっても，いろいろな国の料理に触れられる場になります。

▼長年，外国人の支援をしている中で，最近特に気になることはありますか？

―最近特に増えていると感じるのが，外国にルーツをもつ親子の間で起きる，言葉をめぐる問題です。

たとえば，日本の学校教育や進学の仕組みを十分に理解していない親御さんも少なくありません。子どもは日常会話ができるため，日本語が「できている」と受け止められがちです。一方で学習言語としての日本語は十分ではなく，中学校までは進級できても，高校進学の段階で試験の日本語が壁となり，進学できない問題が表面化します。日本で生活の基盤を築いている子どもたちにとって，進学できないことは，日本で生きていく上での選択肢が，狭められてしまいますよね。

また，子どもは学校に通い始めると，驚くほど早く日本語を覚えます。その一方で，母語を使わなくなり，次第に忘れてしまう。母語を中心に生きてきた親と，母語を失いつつある子どもとの間で十分なコミュニケーションが図れず，誤解や摩擦が生じ，大きなトラブルに発展してしまうこともあります。実際に，家出をした子どもを夜遅くまで探し回ったこともありました。こうした言葉をめぐる親子間の問題をとても心配しています。

▼行政等への要望があれば教えてください。

―今後，家族滞在で来る外国人の方が増えてくると思っています。その中で，配偶者や外国人児童を取り巻く課題に，早い段階から向き合う必要があると感じています。

特に，外国人児童の保護者に対して，日本の学校教育や進路，在留資格について知る機会を，行政や協会主催で設けてもらいたいです。一度，きちんと話を聞ける場があれば，保護者や子どもたちの不安を減らせると思います。

それから，行政と民間が，もっと連携できたらと感じています。行政が地域の課題を把握・集約し，それを私たちのような支援団体につなぐ。民間はフットワークが軽く，個別の状況にも柔軟に対応できます。行政が全体を見て，民間が細やかなケアを担う，そんな役割分担ができたらいいなと思っています。

JICA デスク鹿児島からのお知らせ

「人生なんてきっかけひとつ」JICA 海外協力隊春募集が始まります！

開発途上国を舞台に、現地の人々と共に生活し、同じ目線に立って、課題に取り組む海外ボランティア。JICA 海外協力隊は年 2 回の募集期があり、これまでに約 5 万人以上の方が派遣されてきました。鹿児島県からも 1000 名を超える JICA 海外協力隊が出発しており、世界も、日本も、鹿児島も元気にする存在として、帰国後の活躍にも期待が寄せられています。

「人生なんてきっかけひとつ」

まずは、お気軽にお問合せください！

春募集 応募期間 02/27(金)▸04/15(水)

≪2026 年度春募集説明会@鹿児島≫

3月8日(日)15:00-17:00

会場：センテラス天文館図書館

※一部、オンライン参加可。ご希望の方は、二次元バーコードよりお申込ください。

<当日の内容>
- JICA 海外協力隊概要説明
- 協力隊経験者による体験談
  ※元モロッコ隊員登壇予定
- 座談会
- 質疑応答

JICA デスク鹿児島 担当:仮屋 TEL:090-7167-4238　(公財)鹿児島県国際交流協会内

がいこくじんそうごうそうだんまどぐち

外国人総合相談窓口

鹿児島にお住まいの外国人の方のための相談窓口です。生活，在留資格，労働，医療，福祉などで困ったことがありましたら，お気軽にご相談ください。

対応言語 ： 日本語/英語/中国語/韓国語/ベトナム語/タガログ語/インドネシア語/ネパール語/クメール語/タイ語/ミャンマー語/ポルトガル語/スペイン語/マレー語/フランス語/ロシア語/ドイツ語/イタリア語/モンゴル語/シンハラ語/ヒンディー語/ベンガル語/ウルドゥー語/トルコ語

鹿児島県国際交流協会内

TEL：070－7662－4541

E-mail：kiasoudan@gmail.com

Facebook

本誌・掲載内容に関する問合せ・申込み先

公益財団法人鹿児島県国際交流協会

（ 火曜～日曜　9：00～17：00 ）

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50　カクイックス交流センター1階（かごしま県民交流センター1階 ）

Tel: 099-221-6620 Fax: 099-221-6643

URL: https://www.kiaweb.or.jp/

Email: kia@kiaweb.or.jp

Facebook: https://www.facebook.com/Kagoshima.Intl.Assoc

「国際交流ひろば」は，ホームページにも掲載しています。ご自由にダウンロードしてください♪